

A 氏邸訪問記(2014.7.30)

1. はじめに

前回伺ったのは DA-3000 と USB-201 を導入された際でしたが、その後、MYTEK DIGITAL 192-DSD を導入され、HQPlayer と MYTEK DIGITAL 192-DSD による DSD Native 再生や DA-3000 と MYTEK DIGITAL 192-DSD の SDIF 伝送も実施されているので、一度聴かせていただくということになり、M 谷氏、S 氏、Y 氏とともにお邪魔しました。さらに、拙宅の城下工業の DSD 対応 DAC の SWD-DA10 と M 谷氏のマスタクロックジェネレーターの MUTEK の MC-3 を持ち寄って、いろいろな再生パターンを試してみることにになりました。

2. 試聴の経過

A 氏邸のスピーカーは、QUAD、Tannoy Arden、KEF の LS3/5a ですが、今回は上杉のプリアンプとパワーアンプで駆動されている QUAD を聴かせていただきました。



最初に SWD-DA10 に GPS-777 から 172.4KHz のクロックを入れた状態で、HQplayer の設定を PCM の 176.4KHz 送り出しと DSD の 5.6MHz の送り出しの条件で聴かせていただきました。A 氏は GPS-777 からの 176.4KHz のクロック入力により SWD-DA10 単独でも十分鑑賞に耐えられると評価しておられました。



次に SWD-DA10 のアナログ出力を DA-3000 に入れ、DA-3000 で DSF,5.6MHz の設定にして INPUT MONITOR の状態で SDIF-3/SDIF-raw の伝送により MYTEK

DIGITAL 192-DSD で DSD の DA 変換を行う結線に変更しました。そうすると SWD-DA10 単独の場合より、一層、弦楽器の質感、奥行き感や広がり音場の再現が向上しました。さらに、DA-3000 に MUTEK MC-3 から 44.1KHz のクロックを入れると、音の厚みや力強さが加わる印象を持ちました。この状態で、PC の HDD 上の DSF,5.6MHz の音源と外付けドライブから CD を再生して HQPlayer でリアルタイムに DSD に変換して聴いていきましたが、音楽ジャンルを問わずハイグレードの音を聴かせてくれました。特に驚いたのは CD が通常の CD プレイヤーで聴けないようなパフォーマンスを示したことです。試しに DSF,5.6MHz 音源とこれをダウンコンバートして CDR に焼いたものを 1:1 比較してみました。やはり DSD の Native 再生は、いったんダウンコンバートした CDR からのリアルタイム DSD 変換による復元再生より、音の深み、厚みで優っているように感じました。

A 氏の場合、CD を再生して HQPlayer でリアルタイムに DSD に変換して音が出始めるのに、ほとんど時間を要しませんが、拙宅の PC ではかなり時間を要します。A 氏によれば、DSD 再生の設定のフィルター特性を替えているとのことでしたので、後日比較検討することにしました。

ここで、ちょっといたずらをして、SWD-DA10 のクロック入力線を引き抜いてみたところ、音の焦点がぼけてしまい、GSP-777 からのクロック入力の効果の大きさを一同再認識しました。GSP-777 からのクロック入力のある状態では、ヴァイオリンからヴィオラ、チェロに至る弦楽器の質感はもとより、Jazz のベースの弾み具合や音太鼓座の大太鼓の重低音の揺れが、本当にこれが QUAD なのか?と思わせるような効果をもたらしていました。

さらに Y 氏からのリクエストでアナログから以前にオーディオインターフェース経由で取り込んだ、44.1KHzWAV と 192KHzWAV の比較をしたいということでしたが、ともにオーディオインターフェースの制限から 16bit のフォーマットであり、HQPlayer では 192KHz,16bitWAV の再生ができず、44.1KHz,16bit WAV しか聴けませんでしたが、アナログソースから取り込んだメリットは十分感じられました。このことについては後日の課題としました。

なお、A 氏は PC の画面を HDMI ケーブルで TV の画面に写し出し、HQPlayer の操作画面を示しながら、再生操作を実施していただきましたので、短時間の間に多くの複雑なメニューを効率よく十分に理解しながら進めることができました。



最後に結線を変更し、Diga BZT9000→CCV-5(96KHz) →SWD-DA10(192KHz) →DA-3000(44.1KHz) →MYTEK DIGITAL 192-DSD というラインアップで Diga BZT9000 で録り溜めた音源を鑑賞させていただきました。なお、CCV-5 (96KHz) と SWD-DA10 (192KHz) へのクロック入力 は GPS-777 から、DA-3000 (44.1KHz) へのクロック入力 は MUTEK MC-3 から行っています。BZT9000 から再生しながら DA-3000 で録音した DSF,5.6MHz 音源の HQPlayer による再生より、オリジナルの BS 録画の再生の方が鮮度感に勝るとの声が上がりました。A 氏によれば、現状で実際のコンサートに行っているようで大いに満足しているということでした。

3. まとめ

以上をまとめますと、SWD-DA10 単独と HQPlayer による DSD Native 再生でもかなり満足度は高いのですが、さらに DA-3000 と MYTEK DIGITAL192-DSD を加えると一層満足度は高くなること、特に CD のリアルタイム DSD 変換再生はメリットが大きいこと、SWD-DA10 や DA-3000 へのクロック入力の効果が高いことなどが分かり、A 氏の今後の方向性を決める上の情報が十分に得られたと思われま

4. 積み残し検討課題のフォロー

当日の状況で宿題となった事項について 8 月 2 日に A 氏に PC 持参でお越しいただき、PC2 台を並べて突合せしました。以下はその結果です。

4-1) CD の DSD リアルタイム変換再生時の音が出始めるまでの時間の相違

拙宅では HQPlayer の SDM(DSD)初期設定のオーバーサンプリングフィルターの設定を poly-sync にしていますが、A 氏はここを minringFIR にされています。そこで相互に設定を変換して確認し、CD の DSD リアルタイム変換再生時の音が出始めるまでの時間の相違は、この設定条件の違いがあることが分かりました。なお、音に関しては、poly-sync の方が若干柔らかみや音場の広がり感があるようですが、その差はわずかです。

4-2) 192KHz,16bitWAV の再生ができなかった件

Y 氏提供の 192KHz,16bitWAV をファイル変換ソフト r8brain を用いて 192 KHz,24bitWAV に変換して再生してみたところ、拙宅の PC では 192KHz,16bitWAV も 192 KHz,24bitWAV もともに再生できるのに対し、A 氏の PC ではともに再生できませんでした。よく見ると A 氏の PC では HQlayer 設定の PCM 初期設定のサンプリング周波数最大値が、拙宅の PC では 192KHz になっているのに対し、A の PC では 176.4KHz になっていましたので、A 氏の PC も 192KHz に設定しなおすと 192KHz,16bitWAV も 192 KHz,24bitWAV もともに再生できるようになりました。音はアナログから録り込んだハイレゾらしい音でした。

以上